

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077600155		
法人名	社会福祉法人 三井福祉会		
事業所名	グループホーム 白梅		
所在地 (電話番号)	〒830-1112 久留米市北野町陣屋486-6 (電話) 0942-78-6678		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年4月16日	評価確定日	平成21年5月21日

【情報提供票より】(平成21年3月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算7.5人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独		新築 / 改築	
建物構造	木造瓦葺		造り	
	2 階建ての		1 階 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	1,500 円	
敷金	有 ( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要 (平成21年3月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低 82 歳	最高	98 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中内科医院、しづえ歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

実際の民家に個室を増設し、グループホームに改造した建物で、周りの風景とも調和し違和感の無いたたずまいである。中に入れば自宅にいるような安心感があり、のんびりとくつろぐことが出来る。1ユニットであり、職員、利用者が少人数で家族のように暮らし、会話と笑い声が絶えないホームである。リビングに置いてあるアルバムの中には、行事の時の写真がたくさん残っており、利用者の笑顔が溢れている。同法人の関連施設も多数あり、お互いに協力し、支え合いながら運営している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価に対し、前向きに検討する姿勢はあるが、理念の中に「地域性」について盛り込まれていない。立ち上げ時に作られた理念を変更することに抵抗感があり、まだなされていない状況である。また、職員の権利擁護の学習についても十分とは言えない。同業者との交流や市町村との連携は、グループホーム部会への参加によって、改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者を中心に職員全員で検討している。記入時と調査時では、管理者が変わっており、動揺もあることと察するが、評価を受けて事業所をより良く改善していくとする現管理者の積極的な姿勢がうかがえる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的に行われており、議事録も整理されている。参加者には市職員や地域代表者、家族、また利用者本人も含まれており、ホームでの生活状況を定期的に説明することで、周囲への理解を深めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族との会話の時間を十分とれるように、ホームへの来訪が頻回になるような配慮が見られる。すべてをホームで管理することはなく、衣類の入れ替えやオムツの補充を家族にお願いすることで、家族がホームに来られる理由付けとしている。来訪の際、十分に話ができるように、話しやすい雰囲気作りにも力を入れている。玄関に意見箱も設置されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣との人間関係も密に保たれており、地域行事への参加、ホーム行事への地域住民の参加も見られる。秋のおくんち祭りの踊りをホーム前で踊ってもらうなどの心温まる交流もある。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所立ち上げの際、職員皆で考えた理念があり、玄関に掲げられ、実践もされている。「地域の中で」等の文言が含まれていないが、立ち上げ時の気持ちを大切にしたいとの考えで追加はなされていない。		利用者には近隣からの方もおられ、住み慣れた地域で暮らし続けることも重要なことであると思われる。理念にもそのことを一文付け足されることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「心の和む時間の中で生き、家庭的な親近感を大切にしたい」という理念の通り、利用者は落ち着いて和やかに過ごしている。管理者と職員は常に理念を反復し、心を合わせた取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご近所付き合いが出来ており、野菜をいただいたり、散歩の際の挨拶などもなされている。ホームの行事であるぜんざい会への近隣の参加なども見られる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、管理者の配置換えで、急遽現管理者にお話をいただいたが、記入に関してはもともと職員全員で取り組まれており、混乱はなく、評価は改善のためのものと積極的に取り組む姿勢が見られる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されており、議事録も残されている。メンバーには、以前旧北野町の相談員をされていた方が地域代表で参加されており、地域内での相談ごとなど事細かに対応していただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム部会の学習会に市職員も参加され、顔なじみの関係が築かれている。また、市の窓口パンフレットを置いてもらい、ホームのPRがなされている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	新旧の管理者は成年後見人制度について学習しており、家族会で話したり、職員にパンフレットを配って説明したりしている。しかし、まだ、家族から質問を受けても全員が明確に説明が出来るまでには至っていない。		職員全員が研修を受け、理解を深められることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月末に血圧や体温の記録などを含めた文書を送付し、年3回は写真入りの「白梅便り」を家族に送付している。預かり金の出納も3ヶ月に1度は報告されている。職員の異動等についても、担当利用者の家族に事前に話している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にオムツの購入や受診、衣服の入れ替えをお願いしており、来訪が頻回であるため、その際に充分会話を持つことを心がけ、話しやすい雰囲気作りもなされている。玄関に意見箱を置く工夫もある。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に対し担当を決めているが、日頃から職員全員が全利用者のことが分かるように接しており、異動で混乱があったことは無い。異動に際しては家族にもあいさつ文を出し、報告がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては制限を設けていないが、調理が出来る方をお願いしているため、自然と主婦層の職員が集まっている。子供さんの用事に合わせてシフトを組むなど、お互いの協力がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動  法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設長は仕事の手順だけではなく、なぜそうするのかということを理解するための勉強を薦めている。今後は更に学習を深め、高齢者の人権を守るためにはどうすべきかを考えていこうとする姿勢が見られる。		高齢者の尊厳を守るためにどうすべきか、今後も身近なところから考えていかれることを期待する。
13	21	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に講師を配し、定期的な学習会がなされている。必須研修は勤務時間内に組み込まれ、職員が希望する外部研修等は、休みの都合をつけ、参加しやすい配慮がなされている。研修を受けた者による内部への伝達講習もあり、資料はきちんとファイルされている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会に参加し、情報交換や学習会がなされている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学を受け入れ、家族と良く話し合った上で利用を開始するようにしている。認知低下のため本人の納得が得られない場合も、自宅と同じ位置に家具を配置するなど工夫し、違和感なく新生活が送れるための支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に対しすべてを支援せず、本人が出来る掃除や繕い物をお任せし、本人のやる気を引き出している。気がのらない方に無理な誘いは行わないように注意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が希望されたことに対し、「どうすれば叶えることができるか？」を職員皆で検討する姿勢が見られる。高良大社をお参りしたいという希望にも速やかに対応し、思い出作りに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者の普段の様子を見てそれぞれの担当者が作成し、その後、職員や家族の意見を組み込み、作成されている。サービス担当者会議も定期的に行い、利用者についての検討は随時なされている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	普段から、介護計画に即してモニタリングを行い、変化があれば、職員や家族の意見を反映して新たな介護計画が作成されている。その際に2表のみを作成し、1表は日付の変更もなくそのまま継続されている。		ケアプランは、変化時のほか、介護保険更新に合わせて作成し、1表と2表の日付はそろえて作成することを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が希望すれば、利用者の部屋に泊まる事が出来、夜も9時までは施設せず、いつでも面会が出来るようにされているので、仕事帰りに寄られる家族もいる。買い物や外出の希望は出来るだけ叶えられるよう、努力をしている様子がうかがえる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を継続するように努め、受診は基本的に家族が行っている。ホームでの様子をノートにまとめ、受診の際に持たせている。受診が困難な場合は往診を依頼している。医師より、普段から様子を熟知している職員の同行を希望する声があり、今後は受診介助も検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在まで一名の看取りを経験しているが、好条件がそろい、実現できたとの考えである。重度化して、車椅子生活になれば、施設的に無理があり、職員数も足りないと考えている。体調に合わせ、入院の手助けや同法人の施設に紹介するなど、退所時の支援はきちんとされている。		もし、終末をホームで過ごしたいとの希望が出てくれば、経験を活かし、対応を検討していただくことを期待する。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者に対しやわらかく対応し、尊厳をもって接している。個人の記録は事務所の奥に厳重に管理されている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、利用者の希望を聞き取り、その日の行事を決めるなど、臨機応変な対応が見られる。一日のスケジュールについても一人ひとりのペースに合わせて、ゆったりと、穏やかな生活が送れるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理については普段は職員を中心になされるが、調理中、利用者は食堂に集まり、手伝いをしたり、味付けにアドバイスしたりと、それぞれが出来る範囲で参加している。日によっては利用者中心に調理する日もある。食器をひいたり、テーブルを拭かれる利用者も居られる。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、家庭的なユニットバスで、毎日午後から利用者のペースに合わせて希望の時間に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの特技を活かし、漬物の漬け方や料理の隠し味を教えてもらったり、畑の作物の育て方をアドバイスしていただいたりしている。また、利用者それぞれの生活歴を把握し、教師をされていた利用者に食事前の挨拶をお願いするなどの工夫も見られる。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、利用者の希望に合わせた外出がなされている。ちょうどよい距離に畑があり、低めのブロック塀に腰掛け、休憩しながら歩いて行かれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は夜9時までかけられておらず、家族も自由に出入りしている。出入り口に行くとき音が鳴るようになっており、単独での利用者の外出を予防している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、昼と夜の災害を想定した避難訓練が行われている。勤務時間以外でも近所に住む職員から順に連絡をいれ、集合するような手順になっている。しかし、避難の際の最終的な集合場所までは設定されていない状況である。		実際に災害が起きるときは、建物周辺は危険が大きいいため、安全な場所への避難が想定されるが、場所を定めていないと、人員確認が出来にくく、二次災害につながる可能性がある。早急に最終的な避難場所を設定することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養と水分の摂取量は表で管理されていて一目でわかるようになっている。特に水分は、味噌汁や食事中のお茶もカウントし、利用者の健康管理がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は居心地良く、光や温度の調節もきちんとなされている。台所からの料理のにおいが食欲をそそり、利用者は自然と食堂に集まってきている。花瓶に季節の花が活けられたり、こいのぼりのオブジェが飾られたりするなど、季節感いっぱいの空間が作られている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人ひとり、個性を活かして家具などが置かれている。中には自宅の家具の配置をそのまま再現している部屋があったり、ベットになじめない方は布団を使ったりと工夫されている。家族からの手紙や写真が飾られ、家庭的な雰囲気が保たれている。		